

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日	校長名		所在地				
大阪ハイテクノロジー専門学校		昭和62年4月1日	橋本 勝信		〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119				
設置者名		設立認可年月日	代表者名		所在地				
学校法人 大阪滋慶学園		昭和62年4月1日	浮舟 邦彦		〒 532-0003 (住所) 大阪市淀川区宮原1-2-43 (電話) 06-6392-8119				
分野	認定課程名	認定学科名		専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度			
文化・教養	文化教養専門課程	バイオ・再生医療学科		平成26(2014)年度	-	平成26(2014)年度			
学科の目的	医療・医薬、環境、食品などバイオテクノロジーが応用される分野で活躍する技術者を養成するため、学内カリキュラムに加えて業界の先端技術を学べる学外実習などの業界連携科目によって、業界に求められる人材を養成することを目的とする。								
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	危険物取扱者・化学分析技能士3級・中級バイオ技術者認定試験・上級バイオ技術者認定試験 入学者15名 卒業生13名 退学者3名(退学率20%)								
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技	
3年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入		2,580 単位時間	870 単位時間	750 単位時間	1,590 単位時間	0 単位時間	0 単位時間
				120 単位	58 単位	42 単位	53 単位	0 単位	0 単位
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)					
114人	60人	1人		1%					
就職等の状況	■卒業生数(C)		13人						
	■就職希望者数(D)		13人						
	■就職者数(E)		13人						
	■地元就職者数(F)		10人						
	■就職率(E/D)		100%						
	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)		77%						
	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)		100%						
	■進学者数		0人						
	■その他								
	卒業生13名、内1名は平成31年入学		(令和5年度卒業者に関する令和4年5月1日時点の情報)						
■主な就職先、業界等		(令和5年度卒業生) 新日本科学(医薬品)、ニプロファーマ(医薬品) 扶桑薬品工業(医薬品)、ミリオナ化粧品(化粧品)リグナイト(化学)等							
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 有 ※有の場合、例えば以下について任意記載 評価団体: 一般社団法人 専門職高等教育質保証機構 受審年月: 平成31年2月 評価結果を掲載したホームページURL: <a href="https://qaphe.com/result/techgraduate/osaka-hightech/">https://qaphe.com/result/techgraduate/osaka-hightech/</a>								
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.osaka-hightech.ac.jp/">https://www.osaka-hightech.ac.jp/</a>								
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	(A: 単位時間による算定)								
	総授業時数		3,210 単位時間						
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		480 単位時間							
うち企業等と連携した演習の授業時数		0 単位時間							
うち必修授業時数		2,580 単位時間							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		240 単位時間							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		0 単位時間							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		0 単位時間							
(B: 単位数による算定)									
総授業時数		単位							
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数		単位							
うち企業等と連携した演習の授業時数		単位							
うち必修授業時数		単位							
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数		単位							
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数		単位							
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)		単位							
教員の属性(専任教員について記入)	① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)							1人	
	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)							1人	
	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)							0人	
	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)							1人	
	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)							0人	
	計							3人	
	上記①~⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数							1人	

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

バイオテクノロジーは先端技術分野の一つであり、その進歩は非常に速い。また、医療や環境分野などへの実用化も速やかに進展している。専門学校においてこの分野の技術を教授するには、産業界や学術関連の新しい情報を常に収集し、その技術をカリキュラム編成に反映させることが重要である。またコミュニケーション能力などの社会人として必要な基礎力についても、業界からの意見を反映して教育指導にあたらなければならない。業界等の意見を計画的に収集する手段の一つとして、教育課程編成委員会を設置する。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会は理事会直轄の独立した委員会組織であり、学内の教務部や事務部とは別に運営される組織である。教育課程編成委員会の位置付けについては、「学校法人大阪滋慶学園 教務組織規則」「学校法人大阪滋慶学園 教育課程編成委員会規定」および組織図に明記されている。教育課程編成委員会の意見は学校内で十分に検討した上で、学科のカリキュラムや教育指導内容に反映する。反映にあたっては学科長をはじめとする学科教員が主体的に行い、必要に応じて教務部長、事務局長、学校長と相談・了承のうえ反映する。学則変更を伴う場合は、理事会の承認を得たうえで反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年7月31日現在

名前	所属	任期	種別
橋本 勝信	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
福土 暁也	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
安達 隆之	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
矢野 昌人	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
井上 佳子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
鈴木 次郎	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
川村 智広	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
藤江 洋志	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
澤田 正二	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
泉谷 信行	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
関谷 俊範	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
尾沢 怜子	大阪ハイテクノロジー専門学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	—
上田 忠佳	物産アニマルヘルス株式会社開発本部 池田動物細胞医薬センター 主席部員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
永井 慎	NPO法人 日本バイオ技術教育学会 理事 岐阜医療科学大学 保健科学部 臨床検査学科 准教授	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
赤澤 夏郎	株式会社プレンプロジェクト 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
鈴木 謙三	マテック八尾(八尾経営・技術交流会)会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
影石 言光	滋賀県運動・スポーツ実施率向上検討委員会委員	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
中武 大輔	株式会社 サップス	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
田村 智雄	公益社団法人 大阪府柔道整復師会 淀川支部	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
乾 紘	株式会社GENKI	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
尾崎 卓宏	ホリスティックメディカルジャパン 代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
志和 輝彦	有限会社 J-RADIANCE かがやき整骨院 代表取締役	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③

丹波 徹二	公益社団法人 大阪府鍼灸師会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
嶋田 琢磨	しまだ鍼灸訪問治療院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
杉浦 正人	関西医科大学香里病院 臨床工学技士	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
宮本 哲豪	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会理事 理事 在日本南プレスビテリアンミッション淀川キリスト教病院(課長)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
小嶋 宏典	社会医療法人 祐生会 みどりヶ丘病院 医療技術部 臨床工学課 課長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
徳永 政敬	一般社団法人 兵庫県臨床工学技士会 理事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
村川 圭三	国立研究開発法人 国立循環器病研究センター	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
藤田 秀樹	公益社団法人 大阪府診療放射線技師会 副会長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	①
氏浦 亜由美	マイヘルスクリニック 心斎橋院 放射線科 技師長	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	③
福西 康修	公益社団法人 日本放射線技術学会 近畿支部 幹事	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	②

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「－」を記載してください。)

- ① 業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ② 学会や学術機関等の有識者
- ③ 実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4) 教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回の実施(6月・1月)

(開催日時(実績))

第1回 令和6年6月27日実施 18:30～20:10

第2回 令和6年1月18日 18:30～20:10

第1回 令和5年6月30日実施 18:15～20:10

(5) 教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

座学から入るのではなく、実験をベースに知識を関連づけて学ばせるべき。実験を通して、考え方や取り組み方を学ぶことで社会人として必要な力を身に付けさせる。実験技術も広く浅くではなく、高いレベルでの技術習得を目指すべき。また人間性の育成も意識することが業界からのニーズに応えることにつながる。技術者を育成する学校として大学と差別化するためには以上の点をより強化すべき。

2. 「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習（以下「実習・演習等」という。）の授業を行っていること。」関係

(1) 実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針  
 企業等との連携に当たり、学生の就職先となる各業界（医療・医薬・化粧品・食品・化学・環境等）のうち、専門学校生の採用実績がある企業を中心に選定している。企業側にも学校側にも双方にメリットのある連携を行っている。

(2) 実習・演習等における企業等との連携内容  
 ※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記  
 インターンシップ等学外で研修として学ばせていただくとともに、即戦力のスタッフとして人材を提供するように双方にメリットのある形で実施している。特別講義では業界及び職種の話を伺う形で設定している。評価には、インターンシップ等については評価表による個別評価を依頼し、特別講義では学生のレポートを提出している。学校より、外部研修等の依頼においては、学校法人とは直接的な関連の無い企業等を選出し依頼している。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
学外研修	企業・大学・公的機関等での研修を通じて、専門技術や社会人基礎力等を身に付ける。	大阪大学大学院医学系研究科細胞生物学、大阪大学大学院医学系薬理学講座生体システム薬理学、関西医科大学医学部 iPS・幹細胞再生医学講座、等

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

バイオテクノロジー分野の進歩は非常に早いため、教員自身が専門分野について学ぶための研修の充実が必要である。また、学生の変化(学力、意欲等)も多様化しているため、授業の方法などについても新たな取り組みが必要である。このようなニーズを踏まえて、学校としてFD委員会を設置し学科教員を対象とした研修を実施している。学校内および学園内で実施する研修は原則として参加が義務付けられており、学外で実施される研修については、教員の代表者が出席してその内

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: 2024トップマネージャーのための新春セミナー

連携企業等: 生産技術振興協会

期間: 2024年1月22日(月)

対象: 和田・古谷

内容: 再生医療業界の現状と構想について、行政の方針も含めて。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 人権教育研修会8

連携企業等: 大阪府専修学校各種学校連合会

期間: 2023年10月4日(水)

対象: 和田

内容: 発達障害等がある学生へに支援のあり方について。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名:	多能性幹細胞の可能性に迫る～高機能化を目指した最新の取り組み～	連携企業等:	エリクサジェン・サイエンティフィック・ジャパン株式会社
期間:	2024年6月20日(木)	対象:	和田
内容:	多能性幹細胞(iPS細胞)を用いた分化に関する研究報告等		

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名:	専門学校教職員向けセミナー(仮)	連携企業等:	大阪府専修学校各種学校連合会
期間:	未定	対象:	古谷
内容:	未定		

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校の諸活動においてその方針と評価結果を公表することは、開かれた学校として当然の責務であり、また学校外の方々からフィードバックをいただくことは学校運営の改善につながることもである。  
本校では「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、毎年、自己点検・自己評価を実施する。その結果について学校関係者評価委員会において説明を行い、学校関係者評価委員より評価をいただいている。学校関係者評価委員会には、学校長や教務部長などとともに、学校関係者の代表として学生の保護者、卒業生、高等学校、地域、業界からが委員として参画している。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	理念・目的・育成人材像、学校の特色、学校の将来構想
(2) 学校運営	運営方針、事業計画、運営組織、人事制度、意思決定システム、情報
(3) 教育活動	学科の教育目標、教育到達レベル、カリキュラムの体系化と科目配
(4) 学修成果	就職率、資格取得率、退学率、学生・卒業生の社会的活躍
(5) 学生支援	就職支援、学生相談、経済面支援、健康管理体制、課外活動、生活環
(6) 教育環境	施設・設備、学外実習、防災体制
(7) 学生の受入れ募集	募集活動、教育成果の開示、入学選考、学納金
(8) 財務	財務基盤、予算・収支計画、会計監査、財務情報公開
(9) 法令等の遵守	法令遵守、個人情報保護、自己点検・自己評価とその公開
(10) 社会貢献・地域貢献	社会貢献活動、ボランティア活動
(11) 国際交流	国際交流の取組み

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

学校関係者評価委員会での議事内容、および学校関係者評価委員より得られた意見等は速やかに学内で討議を行い、必要に応じて具体的な改善を図る予定である。現状は退学率・資格合格率改善を目標に月1回教員全員参加の会議を行い、意見交換・事例発表等行っている。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
福永 かほる	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
福菅 英子	保護者代表	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	保護者代表
久保 みのり	近隣関係者(北中島社会福祉協議会)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	地域代表
高橋 絵吏	大阪信愛学院中学校高等学校	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	高等学校
胡本 晃敏	生命工学技術科卒業生 上野佐藤株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
木村 政義	臨床工学技士科卒業生 兵庫医科大学病院	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	卒業生代表
小西 正和	ナカライテスク株式会社	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
坂本 俊雄	一般社団法人 i-RooBO Network Forum	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
臼井 達矢	学校法人 大阪成蹊大学	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
尾藤 何時夢	公益社団法人 和歌山県柔道整復師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
堀口 正剛	公益社団法人 大阪府鍼灸師会	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
山本 桂	一般社団法人 大阪府臨床工学技士会(医療法人 蒼龍会 井上病院)	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員
難波 昭典	八尾市立病院 放射線科	令和6年4月1日～令和8年3月31日(2年)	企業等委員

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

(ホームページ)・広報誌等の刊行物・その他( )

URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>

公表時期: 2024年7月31日

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針  
 自己点検・自己評価結果等、学校運営や教育活動に関連する情報については、積極的に公開して広く社会に対する説明責任を果たすとともに、公正で透明性の高い運営を推進し、教育活動の改善や社会からの信頼の獲得に資することを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	建学の理念、大阪滋慶学園について、学校の沿革、教育システムと教育
(2) 各学科等の教育	学科の教育目標、教育課程、学科紹介、学年暦
(3) 教職員	教員数
(4) キャリア教育・実践的職業教育	学外実習、学外研修の手引き、特別講義・業界講演、海外研修、卒業研
(5) 様々な教育活動・教育環境	入学前教育、資格サポート、就職サポート、施設・環境
(6) 学生の生活支援	学校生活サポート、Work & Study、クラブ活動・学生寮
(7) 学生納付金・修学支援	学費一覧、学費サポート、修学支援新制度対応
(8) 学校の財務	法人財務状況
(9) 学校評価	自己点検・自己評価と学校関係者評価、第三者評価
(10) 国際連携の状況	国際交流
(11) その他	社会貢献・地域貢献、高専連携、ボランティア活動

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

(ホームページ) 広報誌等の刊行物 ・ その他( )  
 URL: <https://www.osaka-hightech.ac.jp/school/disclosure>  
 公表時期: 令和6年7月31日



授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択					講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			生物学	細胞の構造や機能、生体内の物質合成や代謝などの生命・生物の基礎を理解できるようになる。	1年前期	30	2	○			○	○		
2	○			化学Ⅰ	原子、分子、イオンなど物質を構成する基本的な粒子や物質の化学的性質について理解できるようになる。	1年前期	30	2	○			○	○		
3	○			化学Ⅱ	分子結合、結晶格子、化学反応など物質の構造や化学変化の理論について理解できるようになる。	1年前期	30	2	○			○	○		
4	○			英会話	ネイティブの講師により学び、初級レベルの英会話ができるようになる。	1年前期	30	2	○	△		○			○
5	○			バイオ英語Ⅰ	専門英単語から簡単な英文読解等、英語の基礎を理解できるようになる。	1年前期	30	2	○			○			○
6	○			バイオ英語Ⅱ	専門英単語から簡単な英文読解等、英語の基礎を理解できるようになる。	1年前期	30	2	○			○			○
7	○			コンピュータベースシク実習Ⅰ	PCの基本操作、Excel・Wordを用いた基本的な操作を理解できるようになる。	1年前期	30	1				○	○		○
8	○			コンピュータベースシク実習Ⅱ	Power Pointを用いプレゼンテーション資料作成およびまたExcelを用いた統計操作を理解できるようになる。	2年前期	30	1				○	○		○
9	○			コンピュータキャリアートレーニング実習	マイクロソフトオフィススペシャリスト合格に向けた対策授業を通し、Excelの基本的な操作方法を習得し合格を目指す。	1年後期	30	1		△		○	○		○
10	○			バイオテクノロジー実習Ⅰ	実験計画の立て方、プロトコルの作成、データの取扱い、レポートのまとめ方を習得する。	1年前期	30	2				○	○		
11	○			バイオテクノロジー実習Ⅱ	実験計画の立て方、プロトコルの作成、データの取扱い、レポートのまとめ方を習得する。	1年後期	30	2				○	○		
12	○			バイオテクノロジー基礎実習	バイオ実験の基礎的な手法に始まり分析機器の取り扱い、微生物培養技術を習得する。	1年前期	60	2				○	○		○
13	○			分析化学実習	滴定、クロマトグラフィーの原理を理解し、また分光光度計などの分析機器の取扱いを習得する。	1年前期	60	2				○	○		○
14	○			バイオテクノロジーハンズオントレーニング	分子生物学的手法に必要な精密操作、また細胞培養における必須スキルである無菌操作を習得する。	1年後期	30	1				○	○		○
15	○			微生物学	微生物の分類、同定法、培養法、増殖、代謝および微生物の利用方法について理解できるようになる。	1年前期	30	2	○			○			○
16	○			生化学	生体成分であるタンパク質・糖・脂質・無機質などの構造・機能について理解できるようになる。	1年後期	30	2	○			○			○
17	○			有機化学	有機化合物の分類、国際命名法、性質、構造、異性体、反応性などについて理解できるようになる。	1年後期	30	2	○			○			○
18	○			分析化学実習	酸・塩基、酸化還元、溶液の濃度、定量・定性分析などの基礎や原理を理解できるようになる。	1年後期	60	2				○	○		○
19	○			生化学実習	酵素反応や糖・脂質・無機質などの生体材料を取扱う実験技術を習得する。	1年後期	60	2				○	○		○
20	○			微生物学実習	培養培地の調製、微生物の播種、培養などの微生物培養技術を習得する。	1年後期	60	2				○	○		○
21	○			分析化学応用実習	TLC、HPLC、GC、分光光度計など機器分析について習得する。	1年後期	60	2				○	○		○
22	○			分子生物学	核酸の構造と機能、DNAの複製、転写・翻訳の仕組みについて理解できるようになる。	1年後期	30	2	○			○			○
23	○			解剖生理学	再生医療や医薬品の働きを学ぶ上で必要となるヒトの解剖生理について理解できるようになる。	2年前期	30	2	○			○			○
24	○			免疫学	再生医療や医薬品の働きを学ぶ上で必要となる免疫機構について理解できるようになる。	2年前期	30	2	○			○			○
25	○			遺伝子工学	分子生物学的解析における核酸の取り扱いおよび分析手法について理解できるようになる。	2年前期	30	2	○			○			○
26	○			細胞工学	細胞の機能、分裂、代謝、シグナル伝達などの基本プロセスおよび細胞培養などの実験技術の理路をできるようになる。	2年前期	30	2	○			○			○

27	○	分子生物学実習	核酸およびタンパク質の取り扱いと基本的な解析手法を習得する。	2年前期	60	2			○	○	○	○		
28	○	細胞培養実習	細胞の培養法、凍結保存法、継代培養法、初代培養法などの動物細胞の基礎技術を習得する。	2年前期	60	2			○	○	○	○		
29	○	バイオ技術演習	中級バイオ技術者認定試験対策を通して、バイオ関連科目の復習をおこなう。	2年後期	30	2			○		○	○		
30	○	バイオ技術特講	上級バイオ技術者認定試験対策を通して、バイオ関連科目の復習をおこなう。	3年後期	60	4			○		○	○		
31	○	品質管理学	品質計画、評価、改善、統計的管理、保証などの基本を学び、問題解決スキルについて理解できるようになる。	2年前期	30	2	○			○	○			
32	○	化粧品学	皮膚の解剖生理や化粧品成分、製剤化技術、処方について習得する。	2年前期	30	2	○			○	○			
33	○	食品科学	食品の構成、保存技術、法規制、アレルギー、トレンドなど食品に関する科学的知識について理解できるようになる。	2年前期	30	2	○			○	○			
34	○	危険物取扱者試験対策	危険物取扱者乙種4類合格へ向けた対策授業を通し、基礎化学及び危険物取扱の基礎知識を習得し、合格を目指す。	1年前期	30	2			○		○		○	
35	○	化学分析技能士試験対策	化学分析技能士資格対策授業を通し、化学分析の基礎知識および技術を習得し、合格を目指す。	2年前期	30	2			○		○	○		
36	○	バイオ分析演習	バイオ分析機器の原理から取り扱いやバイオデータベースの検索から解析できるようになる。	2年前期	30	2			○		○	○		
37	○	基礎情報科学	バイオインフォマティクス技術者認定試験に必要な基礎情報科学について理解できるようになる。	3年前期	30	2	○				○		○	
38	○	バイオインフォマティクス技術者認定試験対策	低分子医薬品から核酸や抗体などのバイオ医薬品の生産、精製、評価手法を実験を通してその原理について理解する。	3年後期	30	2			○		○	○	○	
39	○	医薬品演習	低分子医薬品から核酸や抗体などのバイオ医薬品の生産、精製、評価手法を実験を通してその原理について理解する。	2年前期	60	4			○		○	○	○	
40	○	再生医療演習	幹細胞を中心とした培養技術および分化誘導、その評価手法を実験を通してその原理について理解する。	2年前期	60	4			○		○	○	○	
41	○	化粧品学演習	スキンケア・メイクアップ化粧品を中心に化粧品作成を通じて処方開発技術を習得する。	2年前期	60	4			○		○	○	○	
42	○	食品科学演習	食品の成分分析、保存技術、発酵技術等を実験を通してその原理について理解する。	2年前期	60	4			○		○	○	○	
43	○	バイオ特論	バイオ技術に関する最新のトピックについて講演等を通して理解する。	3年前期	30	2	○			○	○	○		
44	○	学外研修	企業・大学・公的機関等での研修を通じて、専門技術・コミュニケーション力、社会のマナーなど社会人基礎力や専門的技術・知識を習得する。	2年後期	##	8				○		○	○	○
45	○	総合演習Ⅰ	卒業研究と連携し、情報収集手法、統計解析手法、プレゼンテーションスキルなど習得する。	3年前期	##	4			○		○	○	○	○
46	○	総合演習Ⅱ	卒業研究と連携し、情報収集手法、統計解析手法、プレゼンテーションスキルなど習得する。	3年後期	##	4			○		○	○	○	○
47	○	実験動物学実習	実験動物の採血・解剖・薬理試験など動物実験の基礎的技法を習得する。	3年前期	30	1				○	○	○		
48	○	英文講読Ⅰ	英語論文の講読を通し、英文の読解力を習得する。	2年後期	30	2	○				○	○		
49	○	英文講読Ⅱ	英語論文の講読を通し、英文の読解力を習得する。	3年前期	30	2	○				○	○		
50	○	キャリア開発講座Ⅰ	ビジネスマンに必要なマナーや考え方や、業界、職種について業界講師から学習する。F60	1年後期	30	2	○				○	○	○	○
51	○	キャリア開発講座Ⅱ	自己分析や業界分析の仕方、面接のポイントなど就職活動に関する様々な事項について学習し、就職活動ができるようになる。	2年前期	30	2	○	△			○	○		
52	○	キャリア開発講座Ⅲ	一般教養試験・SPIなど就職試験として課される筆記試験の対策について学習する。	2年前期	30	2	○	△			○	○		
53	○	キャリア開発講座Ⅳ	一般教養試験・SPIなど就職試験として課される筆記試験の対策について学習する。	3年前期	30	2	○	△			○	○		
54	○	国際バイオ特論	海外研修を通じて、知識・技術・海外のバイオ分野の動向等を理解できるようになる。	2年前期	30	2	○	△	△		○	○		
55	○	卒業研究	研究活動を通してテーマ選定から実験計画・実験・まとめ・発表・報告書作成までを達成する。F65	3年通年	##	16				○	○	○	○	○

56	○	学外実務研修 I	企業、大学、公的機関での研修を通じて、実践力を高め、高度な技術と知識を習得する。	3 年 前 期	##	4			○	○	○	○
57	○	学外実務研修 II	企業、大学、公的機関での研修を通じて、実践力を高め、高度な技術と知識を習得する。	3 年 後 期	##	4			○	○	○	○
58	○	滋慶選択科目 講座	滋慶グループ4校で開講される各講座から、資格取得・就職対策・趣味等に活かす授業を通して幅広い教養や知識を習得する。	1 年 通 年	60	4	○	△	△	○	○	○
合計				58 科目		153 (3210) 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：卒業時に必要な時間数は2580時間（120単位）とする		1学年の学期区分	2期
履修方法：各科目規定時間数以上出席し試験評価等で合格基準を満たすこと		1学期の授業期間	15週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。